

防衛大学校本科第50期、理工学研究科前期課程第41期、理工学研究科後期課程第2期及び総合安全保障研究科第6期学生入校式における防衛大学校長式辞

(平成14年4月5日)

本日、防衛大学校本科第50期学生481名、理工学研究科前期課程第41期学生54名、同後期課程第2期学生5名、総合安全保障研究科第6期学生15名及び留学生13名の諸君の入校式典を挙げるに当たり、教職員を代表して、まず心からお祝いを申し上げます。この入校式に際しまして、萩山防衛庁副長官^{注(1)}をはじめ、多数の来賓のご臨席を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。また全国各地から参列下さいましたご両親、ご家族の皆様に対しましても、お礼を申し上げるとともに、お子様の栄えあるご入校に衷心より祝意を表する次第でございます。



第7代大学長 西原 正

防衛大学校は、1952年（昭和27年）に創立され、本年度創立50周年を迎えました。創立の翌年、昭和28年4月の本科第1期学生400名のための入校式は、ここからそれほど遠くない久里浜で行われました。第1期学生以降、防衛大学校はすでに約2万名の卒業生を送り出してきました。この半世紀の間、防衛大学校がさまざまな試練に直面しながら、それらを乗り越えて今日に至ったことに思いを馳せる時、本日ここに、本科第50期学生を迎えることは、まことに感慨深いものがあります。

当時の入校式は本科学生のみ入校でしたが、その後、研究科課程の学生も入校するようになり、昨年より、4つの異なる課程の入校生を歓迎することとなりましたので、順にお祝いと要望を述べたいと思います。

まず本科への入校生諸君、諸君が、数ある大学の中で、国防という崇高な任務につく人材を養成するこの防衛大学校を選んできたことに敬意を表します。防衛大学校は、文部科学省が定めた大学設置基準に基づく教育科目を組んでおり、卒業に際しては一般大学と同じ学士号が授与されます。しかし防衛大学校は防衛庁に属し、自衛隊の幹部を養成する教育訓練機関であるという点で、一般大学とは異なっています。防大生は、また特別職国家公務員として手当のほか、糧食、被服などが国から支給されます。一般大学では、学生が授業料を収めることで勉学をしますが、諸君は、立派な幹部自衛官にな

注(1) 萩山教嚴（はぎやまきょうごん）

るべく勉学と訓練に励む義務を負うことになります。

このため、諸君には、大いに勉学に励み、大いに体力を増進し、そして幹部となるための徳操を涵養してくれることを期待します。一般の大学では、主として知識の習得を強調しますが、防衛大学校では知育、体育、徳育の三つを強調しています。また昨今必要が叫ばれております教養教育も重視しており、諸君がここで広い視野と科学的思考力を修得してくれることを期待します。

同時に諸君が強靱な体力をもち、そして体力を限界まで試す強い精神力を培うことを要望します。自衛隊組織の上に立つ者は、知識が多くても、体力が伴わなければ、部下はついて来ないでしょう。この知力と体力に加えて、将来幹部自衛官となるものは、人をまとめ、集団を引っばっていくリーダーシップ、そしてそれを支えるすぐれた倫理をもつことが必要です。そのためには、正義、思いやり、自己犠牲などの信条をもった尊敬される人物にならなければなりません。本校では、学生全員が学生舎で規律正しい集団生活をし、また全員が校友会の運動部に入ることによって、リーダーシップや倫理について学びます。これまで自宅での個室生活に慣れた諸君は、学生舎生活とそこにある規律に、ある種の戸惑いを感じているかもしれませんが、指導教官や上級生の指導の下、出来るだけ早く集団生活に慣れることを要望します。諸君の先輩は皆これらの生活を経験し、規律の必要性と倫理観の重要性を認識して卒業していったのです。

次に、理工学研究科前期課程に入校した学生諸君、部隊から離れて学究生活に入り、これまでの自分の理工系の知識をさらに発展させる機会を求めたことに敬意を表します。欧米の将校の多くが修士号をもつ傾向にあるとき、我が国の幹部自衛官においても大学院教育を受けるものがもっと増えるべきです。先進諸国は、高度の科学技術を用いて防衛能力の質的強化を図っています。諸君の研究成果がやがて日本の安全や国際的安全保障に寄与することを期待します。

次に、理工学研究科後期課程は昨年度に開設したばかりですので、今年度の入校生は第2期生になります。諸君の入校を心強く思います。先進諸国は、先端技術の研究開発に懸命の努力をしております。これからの3年間、諸君がより高度の専門的知識を習得し、研究成果を挙げることに強い期待を寄せています。

最後に、総合安全保障研究科に入校した学生諸君に対しては、安全保障問題をより高度の観点から研究してくれることを要望します。国際社会がグローバル化し、国際関係が変質しつつある今日、地域的ないし国際的安全保障の問題を多角的に検討することは急務になっています。諸君の今後2年間の研究成果や研究課程における経験が将来の国際情勢の分析、安全保障政策の構築、国際安全保障環境の改善策の検討などに貢献してくれることを期待しています。

なお、研究科の入校生には、3名の防衛庁外の人たちが加わっています。研究生生活を

通して、部隊を経験した自衛官と相互に切磋琢磨し、視野を広める機会となることを望みます。

最後になりましたが、留学生諸君に一言歓迎の辞を申し上げます。本年度、本科及び研究科に迎える留学生の出身国は、カンボジア王国、インドネシア共和国、大韓民国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国、ルーマニア、シンガポール共和国、タイ王国及びヴェトナム社会主義共和国の9ヶ国です。留学生諸君が祖国を離れて勉学する決意をしたことに敬意を表し、防大入校を心から歓迎します。本科留学生は今後5年間日本語の習得や日本の文化習慣の理解の点でなにかと苦勞することが多いでしょう。しかしそうした異文化との接触を通じて人間的に逞しく成長し、そして祖国を愛する立派な国際人になってくれることを期待します。

もちろん、日本人学生も留学生に対する心遣いを通して自ら人間としての幅を広げ、国際感覚に富む将来の幹部候補生になるべきです。

本科入校生の諸君は、はるかに富士を仰ぎ、眼下に紺碧の大海原を見るこの小原台の「若人の城」での生活に、いま正に歩み出さんとしています。諸君のこれからの健闘を心より祈り、私の式辞と致します。

諸君、入校おめでとう。